

世界各地の「食・栄養」分野の課題解決に向けて

味の素グループは、それぞれの地域の「食・栄養」分野の課題解決に向けて様々な取り組みを行っています。

ベトナム学校給食プロジェクト

ベトナムでは農村部を中心に、必要な栄養素が欠乏し、低身長・低体重の課題を抱える子どもが少なくありません。一方で都市部では中流層が増加し、肥満・過体重の子どもが増加しています。一つの国の子どもたちの間で、栄養不良の二重負荷(Double Burden of Malnutrition)が起きています。

そこでベトナム味の素社は、2012年より「学校給食プロジェクト」を開始。教育訓練省や保健省などの中央行政、全国63省の地方行政とともに、ベトナム全土で栄養バランスのよい学校給食が普及することを目指して活動を続けてきました。

このプロジェクトの目的は、学校給食の質を向上し、生徒の健康と栄養改善につなげることです。まず最初に、地域別の献立のメニューブックと食育教材を4都市において開発・配布しました。そして、給食のオペレーションや衛生管理レベルを向上させるため、モデルキッチンをホーチミン市の一校に設置し、それを他の学校関係者に見学してもらうことで他校への普及を図っています。次に、栄養バランスメニューを組み立てるためのソフトウェアを開発しました。これは2017年1月より、教育訓練省が全国の調理施設を有する小学校4,061校に対し使用を推奨し始めており、2017年3月現在、全国の1,022校で既に導入されています。このプロジェクトにはベトナム国立栄養研究所(NIN)より栄養の側面から支援・協力を得ています。



参照 → 特集1 P21-22

ベトナム全土で、栄養バランスのよい学校給食の普及を目指す〜ベトナム・学校給食プロジェクト〜

プロジェクトの主な内容

- ① 4主要都市における学校給食メニューブックと食育教材の開発・配布
- ② キッチンモデルの設置(ホーチミン市)
- ③ 栄養バランスのとれたメニュー作成ソフトの開発と全国への普及

貧困撲滅を目指した母子栄養改善

妊娠期から子どもが2歳の誕生日を迎えるまでの「最初の1,000日」に栄養が不足すると成長不良が起こり、5歳までの死亡率が高まるだけでなく、知能の低下も招くといわれています。つまり、乳幼児期の栄養問題は、将来にわたり取り返しのつかない影響を及ぼすのです。

味の素グループは、政府機関や大学、国際NGO、企業等の様々なパートナーとともに2009年より、離乳期の子どもの栄養改善を目指すプロジェクトをガーナで推進。離乳食の栄養バランスを強化するアミノ酸入りサプリメント「KOKO Plus」の開発・製造・販売を実現してきました。

2017年4月、味の素(株)が設立した味の素ファンデーションが公益財団法人として認定取得しました。ガーナ栄養改善プロジェクトをはじめとする食を通じた社会貢献活動やソーシャルビジネスは、今後味の素ファンデーションへ移管し活動を継続します。



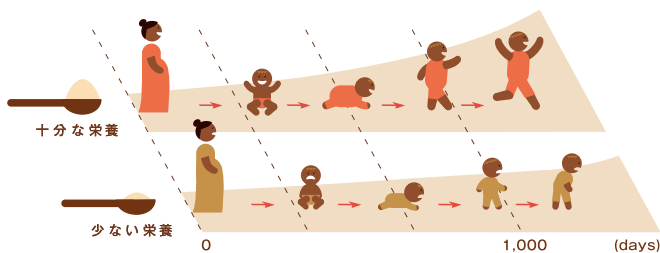
参照 → 特集1 P23

貧困撲滅を目指した栄養不良の解消

参照 → コミュニティ P143

財団による活動

子どもの発育を決める「最初の1,000日間」の栄養



ガーナでは、主に生後6カ月以降の離乳期の栄養不足が原因で、2歳児の約30%が低身長



ガーナの離乳食であるコーンのお粥「koko」は、エネルギーやタンパク質、微量栄養素が不足している。[KOKO Plus]を加えることで、不足栄養素を補うことができる